

■景観を将来につなぐ

本市では、平成21年に景観法に基づく景観行政団体となりました。歴史や文化、自然豊かな景観を将来につないでいくため、関係機関の協力のもと、JR白河駅周辺で景観に配慮した整備を進めるなど、景観まちづくりに積極的に取り組んでいます。



整備前、看板や建物が小峰城三重櫓の眺望を阻害していました。



看板の撤去や建物を移転したことで、小峰城三重櫓への眺望を確保することができました。今後、無電柱化も検討していきます。

美しいまち並みが残り、活気にあふれる、住んでいて快適なまち、しらかわ。そんなまちを目指し、これからも市民の皆さん、事業者の皆さん、そして市が協力して、景観まちづくりに取り組んでいきましょう。

■景観まちづくりニュース

JR白河駅プラットホームの屋根が改修されます！

東日本旅客鉄道(株) (JR東日本) により、JR白河駅プラットホームの屋根が改修されます。

JR白河駅周辺から小峰城三重櫓を望むと、手前にプラットホームの屋根が見えることから、市の景観まちづくりの方針にご協力いただき、屋根の色を三重櫓の瓦の色と合わせた黒色に改修するものです。工事は、年度内に完了する予定です。

一定規模以上の建物で屋根や壁を塗り替えるときは手続きが必要です！

白河らしい景観を守り、育て、伝えるために、「白河市景観計画」で、建物の色などに関するルールを定めています。

一定規模以上の建物の建築や屋根・壁の塗り替えなどを行うときは、あらかじめ景観法および市景観条例に基づく事前協議と届け出が必要です。

基準や手続きの流れは、本庁舎まちづくり推進課にお問い合わせいただくか、市ホームページをご覧ください。また、手続きが必要かどうか、判断に迷う場合は、ご相談ください。

Information

景観まちづくり講演会

将来に向け、白河らしい景観について考え、築いていくきっかけとするための講演会を開催します。

講師に、山形県銀山温泉や下郷町道の駅の景観整備に携わった堀繁先生を招き、良い景観とは何か、景観がもたらす地域活性化とまちづくりへの活かし方などについてお話しいただきます。

- 日時 11月23日(祝)午後2時～4時
- 会場 市立図書館多目的ホール(道場小路)
- 講師 東京大学アジア生物資源環境研究センター教授 堀 繁氏
- 入場料 無料 ※事前に申し込みが必要です。
- 申し込み・問い合わせ先 本庁舎まちづくり推進課 ☎1111 内2747

◎特集 協働でより良い景観をつくる

白河らしい景観まちづくりに向けて

景観は、長い歴史や文化、そこに住む人々の暮らしが反映されます。白河らしい風情ある景観をつくるには、市民・事業者・市のそれぞれが地域への愛着を持ち、それぞれの役割分担のもと、協働によるまちづくりに取り組むことが大切です。

今月号では、市民・事業者・市が行っている景観まちづくりの取り組みを紹介します。

☎本庁舎まちづくり推進課 ☎1111 内2747

■自分たちでまち並みを考える

市が石畳舗装の整備を進めている「一番町大工町線(金屋町・愛宕町・大工町)沿線では、住民自らが地域のまち並みについて考える「金屋町・愛宕町・大工町通り景観まちづくり協議会」を組織しました。

協議会では、城下町にふさわしい魅力的なまち並みにするため、NPO法人しらかわ建築サポートセンターと協力して、景観まちづくり協定の締結を目指し、定期的に勉強会やワークショップ等を開催しています。



▲ワークショップの様子

《景観まちづくり協定とは》

この協定は、住民自らが地域をより良い景観にしようとしたルールです。

協定を互いに守り、取り組むことで、次のような成果が期待できます。

- ①住民活動が続く仕組みができ、生き生きとした快適な生活環境がつけられます。
- ②美しいまち並みや安全で快適な環境がつけられ、土地・建物の資産価値が増大します。
- ③商店街等では、まちを訪れる人が増え活性化します。
- ④地域への愛着や満足度、誇りが高まります。



▲石畳舗装された一番町大工町線

■趣のあるまち並みをつくる

歴史や文化を活かした景観まちづくりを進めるため、市では「白河市景観計画」の方針に基づき、まち並みを形成するうえで配慮が必要な項目を示した「景観形成ガイドライン」を作成しています。

また、景観まちづくり協定を締結した区域等において、協定の基準とガイドラインの基準等に適合する城下町を意識した建築物など、景観へ配慮した整備をする方に、費用の一部を助成しています。



▲城下町の趣に調和するよう建てられた建物